学校番号	416

令和３年度　芸術科［書道］

教科	書道	科目	書道Ⅱ	単位数	２単位	年次	２年次
使用教科書	新編「書道Ⅱ」　（教育出版）						
副教材等	なし						

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

書道Ⅰで学習したことを踏まえて、さまざまな書体や書風の臨書を通し、書の鑑賞と表現能力を高めていきましょう。

「漢字仮名交じりの書」の学習では、自分の思いや感動を表す語句を選び、漢字や仮名の古典の学習をもとに、芸術的な表現を高めるとともに、表現形式を生かし作品制作をしましょう。

自身や他者の作品を客観的に観察し、その特質を捉え、創作活動に生かしましょう。

２　学習の到達目標

表現と鑑賞の幅広い活動を通して、生涯にわたり書を愛好する心情を育てるとともに、書の文化や伝統について理解を深める。また、書写能力を養いながら、主体的に自己を表現するための書の能力を身に付け創作活動に生かしている。

３　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:書への関心・意欲・態度	b:書表現の構想と工夫	c:創造的な書表現の技能	d:鑑賞の能力
観点の趣旨	多様な書法を意欲的、主体的に学び、古典の美を感じろうとしている。また、鑑賞活動を通して、日常生活における書への関心を高め、積極的にその美を味わおうとしている。	古典の特徴を捉え、習得した技法を感性を働かせながら、自らの意図に基づいて構想し、表現活動に生かす工夫をしている。	さまざまな書の学習で習得した表現能力を生かし、創造的な表現の技能を身に付け、創意工夫のある表現をしている。	書の美の多様性、書が生活の中で果たしている役割、書の文化や伝統を理解し、味わっている。自身や他者の作品を客観的に観察し、その特質を捉え、創作活動に生かすことができる。
評価方法	観察 レポート	観察 提出作品 レポート	観察 提出作品 レポート	観察 提出作品 鑑賞カード

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
1学期	漢字の書の学習　①篆書の学習	・篆書の変遷を知る。 ・小篆、大篆の臨書や鑑賞のより、篆書の基本的な用筆、運筆、結構を理解する。 ・甲骨文、金文の特徴を学び、表現の技能を身に付ける。	○		○	○	a:篆書の字形や用筆、線質に関心を持ち、古典の書風の特徴を理解しようとしている。 b:古典の字形や用筆、線質などの特徴を捉え、書風を生かした表現を工夫している。 c:古典の字形や用筆、線質など特徴を捉え、書風を生かした表現をすることができる。 d:字形、用筆、線質など特徴や書風の違いを理解している。	観察 提出作品 レポート
	②篆刻の学習	・印の歴史について理解を深める。 ・印の章法について、中国近代印人の印の作品をよく鑑賞し、理解するとともに、自分の作品に応用する。 ・2～4 文字の遊印をつくる。		○	○		a:印の歴史について理解を持ち、意欲的に取り組んでいる b:篆刻の手順に従い、遊印の表現を工夫している。 c:篆刻の用具、用材と手順を理解、刻ることができる。 d:印の歴史、篆刻の意義や手順を理解している。	観察 提出作品の完成度 レポート
	③隷書の学習	・隷書の変遷を知る ・臨書や鑑賞により、さまざまな書風の古典の用筆、運筆、結構を学び、創意工夫のある表現の技能を身に付ける。	○		○	○	a:隷書の字形や用筆、線質に関を持ち、古典の書風の特徴を理解しようとしている。 b:古典の字形や用筆、線質などの特徴を捉え、書風を生かした表現を工夫している。 c:古典の字形や用筆、線質などの特徴を捉え、書風を生かした表現をすることができる。 d:古典の書風の違いや表現技法を理解している。	観察 提出作品 レポート
	④草書の学習	・草書の変遷を知る。 ・臨書や鑑賞により、さまざまな古典の書風の用筆、運筆、結構を学び、創意工夫のある表現の技能を身に付ける。	○		○	○	a:草書の用筆や運筆などの特徴に関心を持ち、理解しようとしている。 b:古典の字形や用筆、線質などの特徴を捉え、書風を生かした表現を工夫している。 c:古典の字形や用筆、線質などの特徴を捉え、書風を生かした表現をすることができる。 d:草書の用筆や運筆、線質などの違いや、古典の美と表現方法を理解している。	観察 提出作品 レポート

2学期	⑤行書の学習	・臨書や鑑賞により、さまざまな古典の書風の用筆、運筆、結構を学び、創意工夫のある表現の技法を身に付ける。	○		○	○	a:行書の用筆や運筆などの特徴に関心を持ち、意欲的に臨書や鑑賞に取り組んでいる。 b:古典の字形や用筆、線質などの特徴を捉え、書風を生かした表現を工夫している。 c:古典の字形や用筆、線質などの特徴を捉え、書風を生かした表現をすることができる。 d:行書の用筆や運筆、線質などの書風の違いと特徴を理解している。	観察 提出作品 レポート
	⑥楷書の学習	・臨書や鑑賞のより、さまざまな古典の用筆、運筆、結構を学び、創意工夫のある表現を身に付ける。	○		○	○	a:楷書の字形や用筆、線質などに関心を持ち、さまざまな古典の書風の特徴を理解しようとしている。 b:古典の字形や用筆、線質などの特徴を捉え、書風を生かした表現を工夫している。 c:古典の字形や用筆、線質などの特徴を捉え、書風を生かした表現をすることができる。 d:楷書の字形や用筆、線質などの書風の違いや特徴を理解している。	観察 提出作品 レポート
	⑦漢字創作	・自らの思考や感動を表現できる語句を選び、学習した古典を題材とし、習得した技法を生かして制作を行う。		○	○	○	a:漢字の書の創作に意欲的に取り組み、表現の構想から完成に到るまでの充実感や達成感を味わおうとしている。 b:古典に基づき感興や意図に応じた表現を構想し工夫している。 c:古典に基づく表現を工夫し、個性的に表現することができる。 d:古典に基づく表現と、個性的な表現について理解している。	観察 提出作品 レポート

3学期	⑧刻字の学習	・刻字作品を制作し、立体的な書表現について理解を深める。 ・生活の中の書で、身近な表札を刻字制作することで、書を日常生活の中に取り入れ親しみ自宅で活用する。	○	○	○		a:書体の変遷を理解した上で、表現や鑑賞の活動に意欲的に取り組もうとしている。 b:刻字の手順・方法を理解し、自らの意図に基づき、構成の工夫等を行い、刻字のもつ伝統的な美を感受している。 c:刻字の表現をするために、用具の扱い、籠字、刻り、着色等の基本的な技法を身に付けている。 d:作品の鑑賞をとおして、刻字のよさや美しさを感じ取っている。	観察 提出作品の完成度 レポート
	仮名の書の学習	・平安時代の古筆の変遷を学び仮名の書美の特徴を理解する。 ・古筆の用筆、運筆、構成を学び、表現の技能を身に付ける。 ・仮名の書を通して、日本の伝統文化を理解し、日本人の美意識について考える。 ・古典で習得した表現技法を生かした制作を行う。	○		○	○	a:仮名の書の変遷を理解し、連綿、平仮名、変体仮名のさまざまな表現技法を身に付けようとしている。 b:線質や字形、連綿、平仮名、変体仮名、墨色の変化、紙面構成などの特徴を理解し、書風を生かした表現を工夫している。 c:線質や字形、連綿、平仮名、変体仮名、墨色の変化、紙面構成などの特徴を捉え、創造的な表現をすることができる。 d:古筆の美とその表現技法を理解している。	観察 提出作品 レポート
	漢字仮名交じりの書の学習	・自己の表現の意図やねらいを達成するために、漢字や仮名の古典を生かした表現を工夫する。 ・思いと言葉と書の表現の関係について考え、作品を構想する。		○	○	○	a:漢字仮名交じりの書の表現に意欲的に取り組み、漢字や仮名の古典で学んだ表現技法を積極的に生かそうとしている。 b:感興や意図に応じた表現を構想し、工夫している。 c:感興や意図に応じた表現を構想し、古典に基づき個性的な表現を工夫することができる。 d:書作は技能だけではなく、そこに到る動機や感興が創作の重要な要素であることを理解している。	観察 提出作品 レポート 鑑賞カード

※　表中の観点について　a:書への関心・意欲・態度　b:書表現の構想と工夫
c:創造的な書表現の技能　d:鑑賞の能力

※　年間指導計画（例）作成上の留意点

・原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。